

中小企業景況調査報告書

令和 2年 10～ 12月期 実績

令和 3年 1～ 3月期 見通し






始良市商工会

(令和3年1月発行)

この調査は、始良市の産業状況等地域の経済動向について、四半期毎に変化の実態等諸状況を収集して実施しているものです。

























この報告書の中で、用いられているD・I指数とは、ディフュージョン・インデックスの略で、【増加・上昇・好転】の割合から【減少・低下・悪化】の割合を差し引いた値で企業経営者の景気動向を表す指数として利用されています。

〈お天気マークの説明〉

 特に好調 +30.0 以上	 好 調 +29.9～ +10.0	 まあまあ +9.9～ ▲9.9	 不 振 ▲10.0～ ▲29.9	 極めて不振 ▲30.0 以上
---	--	---	---	--

1. 調査対象期間 令和2年10～12月期を対象とし、調査時点は令和2年12月1日とした。
令和3年1～3月期は予測値となる。
2. 調査方法 商工会の経営指導員による訪問及び面接調査による。
3. 調査対象商工会 始良市商工会
4. 回答企業 対象企業 29企業（※始良市29企業を基に指数を表示しており、あくまでも参考指数と理解下さい。）
製造業：7企業 建設業：7企業 小売業：7企業 サービス業：8企業

県内産業別業況DI

		製造業		建設業		小売業		サービス業	
対前年 同月比	1年 10月～12月期		▲13.1		3.4		▲41.2		▲9.6
	2年 1月～3月期		▲25.6		▲20.7		▲38.7		▲22.4
	2年 4月～6月期		▲73.7		▲34.5		▲69.1		▲74.0
	2年 7月～9月期		▲62.5		▲24.1		▲55.4		▲62.6
	2年 10月～12月期		▲46.4		▲25.0		▲51.7		▲58.0
	来期見通し(1～3月期)		▲29.0		▲14.8		▲36.8		▲46.7

総合（業況）

前年同期（令和元年10月～12月期）と比較した今期（令和2年10月～12月期）の業況は、製造業▲46.4（前年同期比33.3ポイント悪化）、建設業▲25.0（前年同期比28.4ポイント悪化）、小売業▲51.7（前年同期比10.5ポイント悪化）、サービス業▲58.0（前年同期48.4ポイント悪化）となった。新型コロナウイルス感染により、全業種大幅な悪化となったものの、鹿児島市天文館クラスターが発生し、県内一円に拡大した前期（令和2年7月～9月期）と比較すると、製造業16.1ポイント・建小売業3.7ポイント・サービス業4.6ポイント、建設業を除きやや改善となった。10月～11月にかけてGoToトラベルやGoToEatが開始され小売業とサービス業において売上額・採算・資金繰りにも

少なからず効果があったとみられ、やや改善となった。

なお、来期（令和3年1月～3月期）の見通し（DI）としては、今期と比較すると、全業種やや改善の見通しであるが、11月からの第3波やGoToトラベルの見直しによっては、先行きの見通しが見えない状況にあり、不安が窺え、中小・小規模事業者にとっては、終息するまで正念場が続くと思われる。

業種別景気動向

【製造業】 有効回答数 7 企業

調査対象企業内訳：食料品(2)、窯業(1)、衣類(1)、家具(1)、印刷(1)、ガラス製品(1)

	売上額		採算		資金繰り		業況	
1年10月～12月期		▲14.3		14.3		14.3		14.3
2年1月～3月期		▲14.3		14.3		0.0		14.3
2年4月～6月期		▲57.1		▲42.9		▲28.6		▲28.6
2年7月～9月期		▲57.1		▲42.9		▲28.6		▲28.6
2年10月～12月期		▲28.6		▲28.6		▲14.3		▲28.6
来期見通し(1～3月期)		14.3		▲14.3		▲14.3		28.6

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・工場移転があったため製造は減産となったが、コロナ禍にもかかわらず一定程度の受注はあるため、年末に向けてフル稼働で乗り切りたいが、従業員の確保難が続いている企業があった。
- ・コロナウイルスの影響で先行きが見えない中ではあるが、お得意様である飲食店の動向次第であるため利益を確保できる体制を維持していきたい。

<経営上の問題点>

- ・従業員の確保難、熟練技術者の確保難が上位を占め、原材料の不足、生産設備の不足・老朽化、製品ニーズの変化への対応に苦慮している企業もある。

【建設業】 有効回答数 7 企業

調査対象企業内訳：総合工事業(2)、設備工事業(1)、職別工事業(4)

	完成工事額		採算		資金繰り		業況	
1年10月～12月期		57.1		42.9		42.9		57.1
2年1月～3月期		0.0		14.3		14.3		0.0
2年4月～6月期		▲57.1		▲42.9		▲14.3		▲42.9
2年7月～9月期		▲42.9		0.0		14.3		0.0
2年10月～12月期		▲28.6		▲14.3		▲14.3		▲14.3
来期見通し(1～3月期)		14.3		0.0		0.0		0.0

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・コロナウイルスの影響で、先行きが見通せない状況となっており、官民需要の停滞が顕著である。また、年度末に向けての感染拡大により今後どのような影響があるか計り知れない。

<経営上の問題点>

- ・官公需要の停滞、民間需要の停滞、従業員確保難が上位を占め、取引条件の悪化、材料価格の上昇、人件費の増加等、利益が出にくい状態になってきている懸念があるとしている企業もある。

【小売業】 有効回答数 7 企業

調査対象企業内訳：飲食料品(4)、衣服(1)、各種商品(1)、石油(1)、その他(1)

	売上額		採算		資金繰り		業況	
	アイコン	数値	アイコン	数値	アイコン	数値	アイコン	数値
1年10月～12月期		▲62.5		▲50.0		▲25.0		▲50.0
2年1月～3月期		▲50.0		▲50.0		▲25.0		▲50.0
2年4月～6月期		▲100.0		▲100.0		▲75.0		▲100.0
2年7月～9月期		▲100.0		▲75.0		▲75.0		▲100.0
2年10月～12月期		▲87.5		▲87.5		▲50.0		▲87.5
来期見通し(1～3月期)		▲87.5		▲75.0		▲87.5		▲87.5

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・コロナウイルスの影響で、需要が停滞し、前期に引き続き食品や生活必需品しか動かない状況が続いている。特に衣料品小売りに関しては、かなり厳しい状況である。
- ・消費増税に引き続き新型コロナウイルスの影響、大型店舗、同業他者の進出により厳しい経営環境にあると感じる。事業継続も見通せない状況。

<経営上の問題点>

- ・大型店・中型店の進出による競争の激化を問題点として企業が多い。また購買力の他地域への流出、販売単価の低下・上昇難、仕入単価の上昇、消費者ニーズの変化への対応が上位を占め、同業者の進出、人件費以外の経費の増加、店舗の狭隘・老朽化、需要の停滞を問題としている企業もある。

【サービス業】 有効回答数 8 企業

調査対象企業内訳：洗濯業(2)・理美容業(3)、飲食店(2)、その他(1)

	売上額		採算		資金繰り		業況	
	アイコン	数値	アイコン	数値	アイコン	数値	アイコン	数値
1年10月～12月期		12.5		0.0		0.0		0.0
2年1月～3月期		0.0		0.0		0.0		0.0
2年4月～6月期		▲87.5		▲62.5		▲50.0		▲62.5
2年7月～9月期		▲62.5		▲37.5		▲25.0		▲50.0
2年10月～12月期		▲62.5		▲62.5		▲62.5		▲37.5
来期見通し(1～3月期)		▲87.5		▲75.0		▲50.0		▲50.0

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・GoToEat やプレミアム商品券等の発行により、客数自体は戻ってきている感があるが、宴会等の団体需要がないため、客単価は下落の傾向にある。コロナの影響で相席等もできないため、回転率も上げられず売上は下落傾向にある。やはりこれでは、飲食店としての将来展望が見いだせない状況である。
- ・新型コロナウイルスの影響で、イベント等がことごとく中止となり、売上の確保が見いだせない。

<経営上の問題点>

- ・従業員の確保難、利用者ニーズの変化への対応、人件費の増加、店舗施設の狭隘・老朽化が上位を占め、人件費以外の経費の増加、材料等仕入単価の上昇を問題としている企業もある。

鹿児島県金融経済概況

【概要】

鹿児島県の景気は、緩やかに持ち直している。

すなわち、最終需要面をみると、個人消費は、全体として緩やかに持ち直してきている。観光は、持ち直している。住宅投資は、弱めの動きとなっている。公共投資は、増加している。生産は、持ち直している。

企業部門の動向を短観（9月<鹿児島・宮崎両県集計分>）で見ると、景況感は、持ち直しつつある。設備投資は、高水準で推移している。こうした企業動向を反映して、雇用・所得環境は、弱い動きとなっている。

【各論】

1. 個人消費

百貨店・スーパー販売額、家電販売額、乗用車新車登録台数（含む軽自動車）のいずれも、前年を上回った。

2. 観光

主要ホテル・旅館宿泊客数、主要観光施設入場者数とも、前年を下回って推移している。

3. 公共投資

公共工事請負金額は、前年を上回った。

4. 住宅投資

新設住宅着工戸数は、貸家を中心に前年を下回った。

5. 生産

鉱工業生産指数（季節調整済）は、電子部品・デバイス、電気・情報通信機械を中心に前月を上回った。

6. 雇用・所得環境

有効求人倍率（季節調整済）は、横ばいとなった。

現金給与総額は、前年を上回って推移している。

常用労働者数は、前年を下回って推移している。

7. 物価

消費者物価指数（生鮮食品を除く総合）は、前年を下回って推移している。

8. 金融面

預金、貸出金とも、前年を上回って推移している。

貸出約定平均金利は、緩やかな低下が続いている。

企業倒産件数は、低水準で推移している。